

医療法人鴻池会

ユニットケア棟

在宅復帰へ生活訓練

御所・葛城山のみもとに位置する医療法人鴻池会は、医療と介護老人保健施設、在宅ケア部門などを併設した総合医療施設だ。

県内でいち早く昭和六十三年に老人保健施設・鴻池荘を開設し、介護医療を手がけた。

高齢化が進む中で、自立と介護は避けて通ることのできないテーマだが、同会の平井政規専務理事は、「自立を支援する施設」だときっぱり。中には、介護を要して特別養護老人ホームに入所を余儀なくされる方もいるだろうが、基本は「自立してもらうこと」だと話す。

年を重ねれば、誰しも身体的に不都合が出てくることは避けられないが、初期の段階で、きちんとしたケアとリハビリを受ければ、在宅復帰することは決して難しいことではない。そこで鴻池会が手がけたのが今回の取材先である「ユニットケア棟」だ。

鉄筋の病院棟が建ち並ぶ敷地の中に、落ち着いた色合いの平屋が異色だ。その場所だけが一般住宅のようだ。「それが目的のひとつです」と平井専務理事。

シニアの

住まいづくり

平成十七年三月に開所したユニットケア棟は、自宅での自立を目指したケアを行う施設として計画された。だから病院や介護施設のようなハコ物ではなく、自宅にいる状態を限りなく再現できる

ように考えられている。

前述の「平屋」造りにこだわったのもそのひとつ。在宅生活をイメージして、療養をしながら家庭生活に復帰できるようにとあらゆる部分に工夫がなされている。

「出入口の位置、廊下の幅、手すりの位置など、まずは現場の意見に耳を傾けました。現場のスタッフは、日々入所者と接して、何が必要か、何が必要でないかを一番知っています。ただ介護することよりも、実生活により近付くために必要な最小限の介護。快適な施設生活ではなく、生活そのものがリハビリであるという視点に立った施設を目指しました」と平井専務理事は語る。

建物内は、十二室の個室が並び、共有部分はキッチンと梁（はり）の見える吹き抜けの食堂、和室、浴室のみ。廊下を広く取り、居室は左右対称の造りで六室ずつ。これは半身マヒの入所者の使

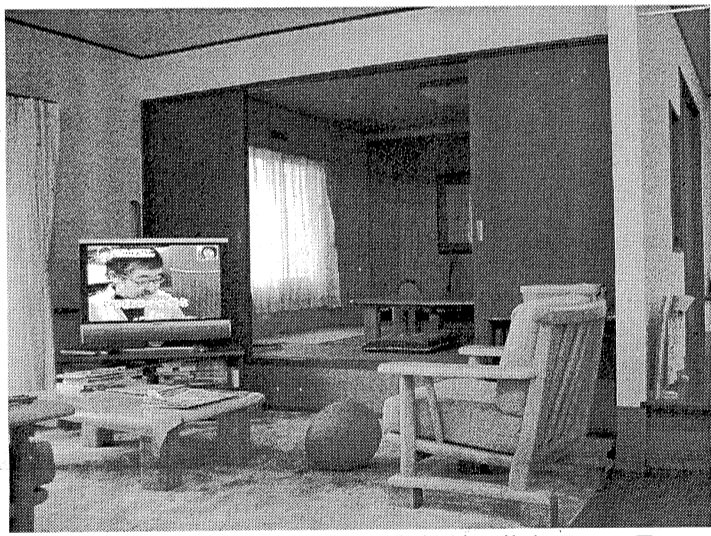
い勝手を意識したもので、やはりスタッフの要望から実現された。また洗面浴室は一般家庭のもの

と何ら変わらない。

そして、ここには通常の介護施設に必ずあるはずの設備がほとんど見当たらない。

例えば「入浴リフト」。ほかにも使いやすいはずの洗面の自動水洗などもない。「勝手に水が出たり止まったりという設備は、どこの家にもあるものではないでしょう。家に帰ればやっぱり自分で蛇口をひねらなくてはならないし、入浴も自分で体が洗えた方がいい。最小限の手助けというのはこういうことなんです」と話す。平井専務理事は、早くから介護支援に携わってきた鴻池会だからこそ、これまでのノウハウを生かしたユニットケア棟が完成したとも言っている。

現在の入所者の平均年齢は男女とも九十歳を超えているが、皆元気だ。ときにはキッチンで、スタッフと一緒におやつを作ることもあると



家庭感のあるリビングや和室などの共有スペース
＝御所市

いう。まさに家庭の雰囲気を感じられる空間だ。平井専務理事は「鴻池会が目指した新しい形の介護支援施設として、一番ニーズにあった建物ができたのは、ハウスメーカーであるパナホームだったからこそ。開所後に改修する必要をいまだ感じないほどの出来ですね」と話す。また建設に携わった同社の奈良支社・森井成和・奈良特販営業所長は「最初から最後まで当社のエイジング事業部のスタッフと試行錯誤を繰り返しながら作品であり、感慨深いものがある」と当時を振り返る。

介護施設を「終（つい）の棲家（すみか）」としてとらえるのではなく、ここユニットケア棟には、自立のための生活訓練の場として考え、自分の足で歩き、自分で食事をとり、一日でも長く元気に暮らすための支援をしたいと願う鴻池会の思いが集約されている。

【鴻池会 介護老人保健施設鴻池荘】御所市池之内1064、電話0745（64）2180、ホームページ <http://www.kumohiketai.com/>
▼ユニットケア棟 4522・2601